

海を見ながらブナの雪山歩き

朝日山系 葡萄山塊 縦走

佐藤

【日時】 2011年2月11日(金)～12日(土)

【メンバー】 L 佐藤 浅井 田村 煤孫

海を見ながらの山旅がモチーフになったのは、新婚旅行での北海道・恵山だったろうか。眼下に照り返す津軽海峡を、ゆっくりと連絡船が行く……。佐渡、海谷、米山、楡形山脈と、雪山から海の展望を求めて越後を登ってもきたが、宿題が残っていた。

仁ちゃんの「ハッピーハウス」のある山形県境・鼠ヶ関から下越・村上にかけ羽越線の車窓から眺めていると、山が海に沈み、川の河口に村があって駅が待つという風景が続く。それに沿って南北24km、東西約8kmに連なるのが、この葡萄山塊である。奥には摩耶山地、さらには朝日連峰が控えて、新潟というより山形の朝日山系の一角を成して、天気がよければ月山まで望めるという。

鈴木さんとスキーで登った主峰・新保岳は「冷蔵庫の中のブナ森」だったが、残念なことに一瞬しか海が望めず、再訪を期した。(年報13号「海とブナが会うとき」)。山々をつなぐ道はなくて縦走は積雪期となるが、海岸端のため雪はたいして積もらない。そこに今年の日海側大雪の報である。行かざばなるまい。

麓にスキー場が開かれている葡萄山からと考えたが、登山者はリフトの利用ができないとのこと。バスの便のよくない国道7号側に回りこむと入山に時間がかかるので



羽越線側からとする。

最北端・城山から取り付くことも考えたが、海つ端の桑川駅から支尾根を辿って稜線にのり、S字状に「道の駅・笹川流れ」へ下るルートにした。

理由はふたつ。2日目から冬型の予報なので、東の内陸側へ降るほうが安心なものと、桑川駅前の食堂「ちどり」で朝食

を食べて、という魂胆である。ところが……。

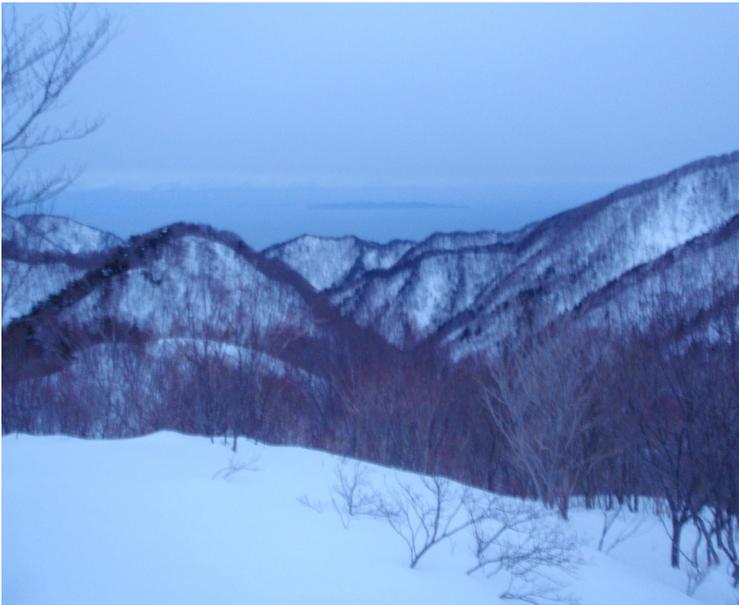
村上を出ると、山が黒い。暖簾は出ているのに「ちどり」は閉まっている。その裏は

ザンパッと冬の日本海。「♪ 恨む言葉も 水面に消えてく まるで海雪……♪」。

桑川右岸尾根からの取り付きを諦め、「名勝・笹川流れ」の元となった笹川沿いの林道を登る。それにしても、駅前で日本海に入る「ホテル沢」って、なんちゅう名前だ。林道の分岐を過ぎると、新保岳を縦貫しようという先埋もれているが、おかげで稼げた。急なひと登りすれば、明瞭な支尾根。植林がブナにかわってくるころ、栗島がブククラ浮いて、これだ、ブナの稜線から海が見たかったんだと何度も振り返った。

予想通り、2月上旬に気温が上がっていたせいで「堅雪かんこ、凍み雪しんこ」。その上にうっすら新雪がのっている。一同スノーシューなので、帆をはった舟のように進む。米ヶ山の西のピークへと登って稜線にのればテン場予定地だったが、新保岳を越えたほうが冬型に転じても安心だと先へ進む。懐かしや新保岳（852m）は、「凍れる音楽」ではなかったが、念願どおり今度は海が見渡せた。

新保岳からその先、ほぼ標高の等しい登立山（820m）までは、細い尾根筋を幾重のクランク状に降ってから、また登り返す。その入り口を確認して幕を張った。雲の切れ間から夕日が落ち、きらきら海面が輝いているのが、テントからも見えた。



翌朝は、「かわたれ時」にヘッドランプで出発する。吹かれるとイヤだと思っていた場所は1箇所を除いてそれほど薄くもなく、先を望めば、栗島の灯台が青の中で瞬いている。

「蒲萄山塊のなかで最もブナ林が美しい」といわれる登立山に登りきったころには、もう島の姿はなかった。そ

の先は支尾根が張り出しているの、周囲を見渡しながらか複雑な尾根筋を手探りで進んでいくが、雪は東から運ばれていて、まだ冬型に転じてはいない。

登立山と三額山の間は、西に早川の谷が意外に深く、ガスに沈めば標高600mほどの山だということをおぼろげに忘れるほど。早川の河口に雲が被り、その先に見えた海が見納めだったが、反対の内陸側には集落が見え隠れしてきて、雪国の里の風情さえ漂う。

登っては下るのを繰り返して、特に急だったのは三額山。盆地に階段状に落ちていく先が「虚空蔵山」だろうというのがはっきりしてきたころ、もう今日中に降ってしま

おうということになった。

思えば「月山北面の虚空蔵山」への沢登りは、我らに加え野村君だったことも奇縁ではある。虚空蔵山には奥の院が座し、下る尾根を違えて汗をかいたが、林道に出れば立派な猿沢・大満虚空蔵尊の社。軒下に村上名物のサケの寒干しを見ながら「道の駅・あさひ」から見上げる奥の院は高かった。身支度し、ひとつ風呂浴びて、村上行きのバスに乗る。村上の割烹 一心で鮭定食が空になるころ、ようやく重い越後の雪は、西からの風によって吹いてきた。



今回はまさに「旅」でした。何が起きるか何が出てくるかわからないワクワク感は、私をもっとも好きなものです。凶らずも一泊になってしまいましたが、十分濃い内容に大満足しました。 田村

05年の年末に櫛形山脈を縦走して以来、耕至さんの頭の中にあつた山行。雪が多い今年は狙いだと踏んで、ようやく実現した。今回はスノーシューが威力を発揮し、思いのほかスムーズに進むことができた。900mにも満たない低山が連なる山塊だが、登山道のない尾根に我々だけのトレースをつけていく雪山縦走ならではの面白さを存分に味わうことができた。また海拔0mから歩くというのも初めての経験で、ぶな森の中を海を眺めながら歩くというなかなか乙な山旅が満喫できた。雪山の低山歩きにすっかりはまってしまった二日間でした。

浅井

海から山に登ったのは、私の山人生で初めて。変わった経験だった。スノーシューは初めて使ったが、威力を実感した。一度スノーシューが外れてしまい、数歩つぼ足で歩いたら腰まで潜った。スノーシューが効いていたことを実感した。標高が低いので比較的気温が高く、それでいて雪が多いので楽しい。最近歳のせいかな寒さに弱くなったので、この季節に越後、東北の低山に行くのは良いと思った。 煤孫

【行程】 2/11 新潟駅前 バス着 5:02 新潟 6:08 発白新線 新発田乗換 羽越本線
酒田行 桑川羽越本線桑川駅(8:20)～笹川林道奥支尾根(10:50)～米ヶ山の
西のピーク(13:10)～新保岳(14:45)～登立山分岐(15:15)

2/12 登立山分岐(6:10)～登立山(7:55)～595の南のピーク(12:55)～三額
山～虚空蔵山(13:40)～道の駅・あさひ(15:40)

【地図】葡萄・塩野町・笹川